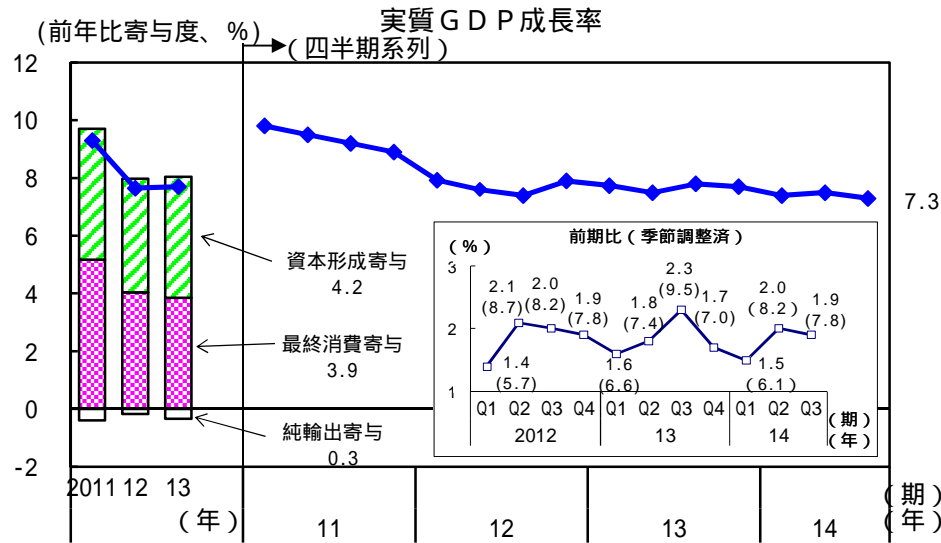
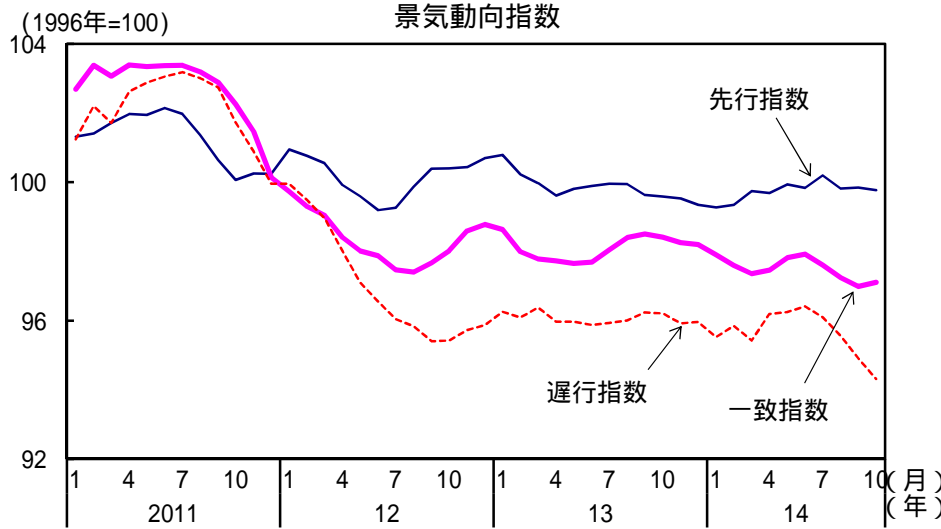
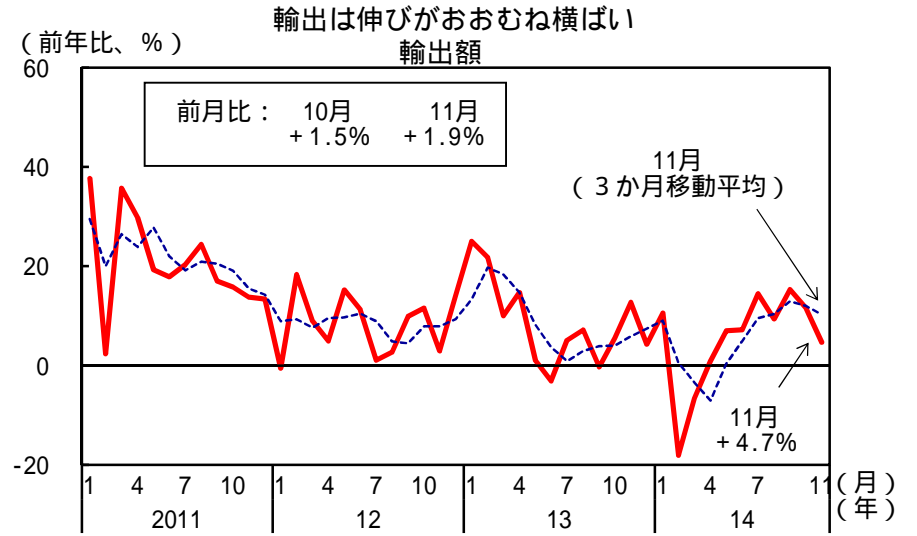


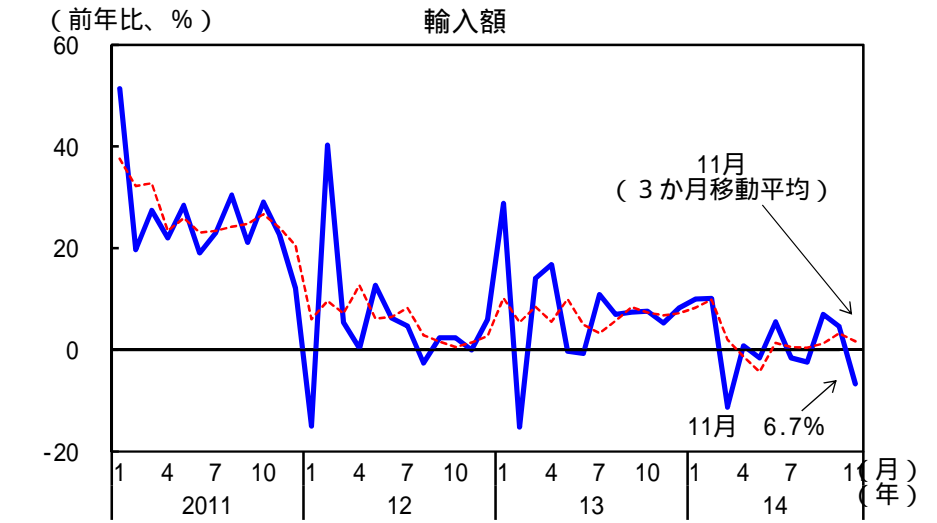
2. アジア地域 中国：



(備考) 前期比のグラフの () 内の数値は内閣府試算による前期比年率。

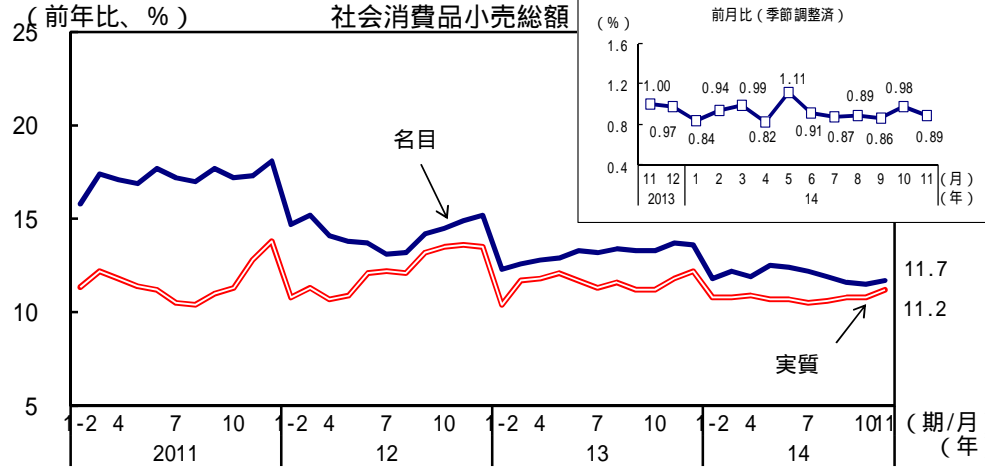


(備考) 一致指数は鉱工業生産等の8指標、先行指数は消費者期待指数等の8指標、遅行指数は個人預金残高等の5指標から構成されている。



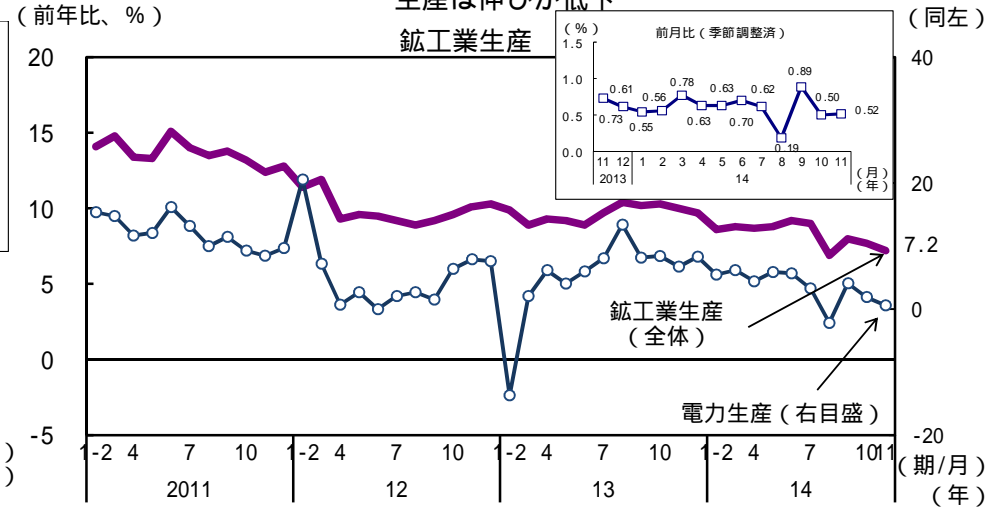
(備考) 春節(旧正月)休暇は、12年1月22~28日、13年2月9~15日、14年1月31日~2月6日。

消費は伸びがおおむね横ばい

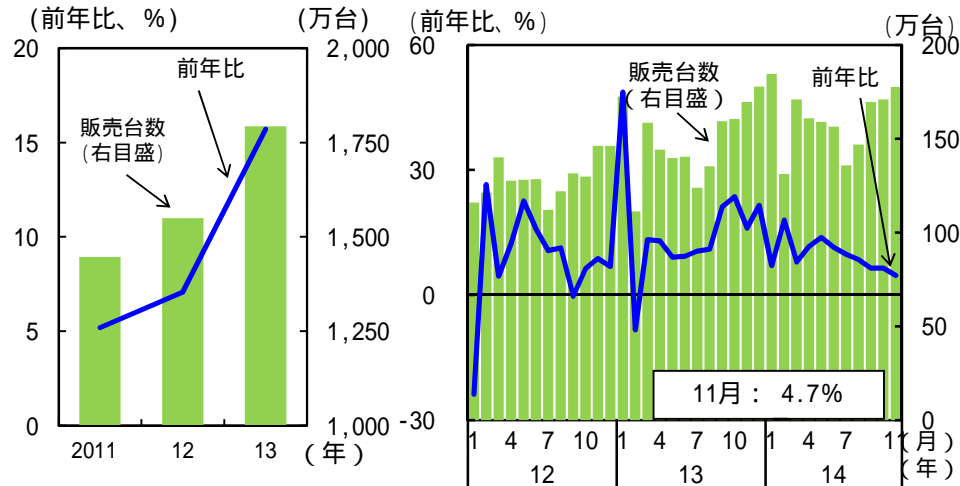


(備考) 1. 実質伸び率は、11年8月までは小売物価指数を用いて試算。9月以降は国家统计局公表値。
 2. 中国では、消費刺激策として農村における家電の普及政策(「家電下乡」)の全国展開(09年2月~13年1月)、省エネ家電購入に対する補助金支給(12年6月~13年5月)小型の低燃費車購入に対する補助金支給(10年6月~13年9月、11年10月より一部基準を厳格化)が実施されていた。

生産は伸びが低下

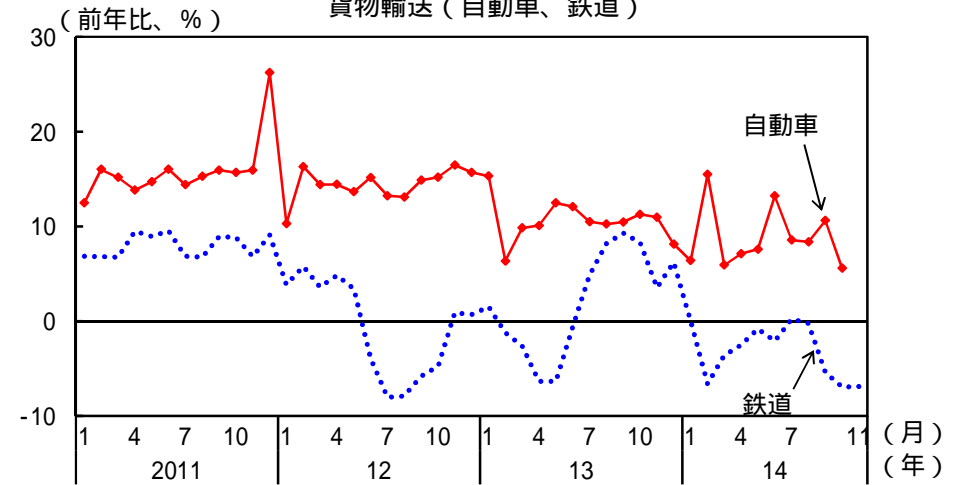


乗用車販売台数は伸びがやや低下



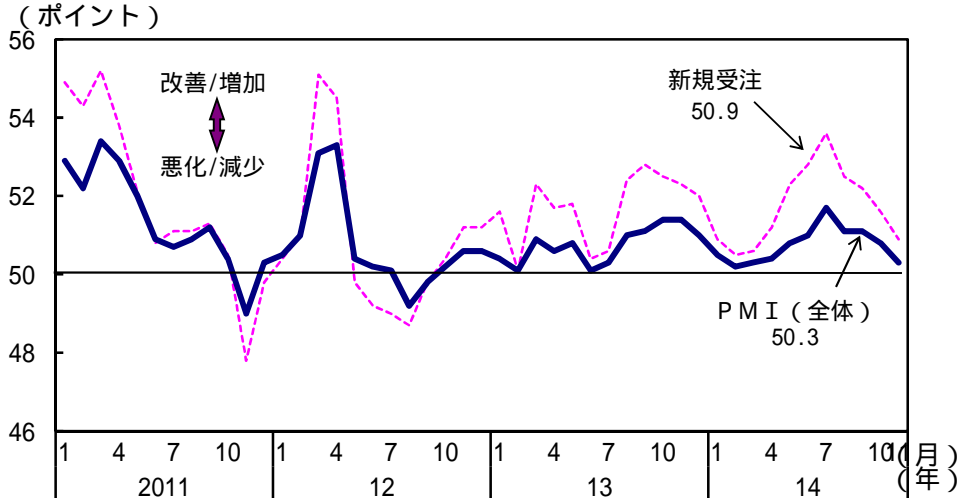
(備考) 春節(旧正月)休暇は、12年1月22~28日、13年2月9~15日、14年1月31日~2月6日。

貨物輸送(自動車、鉄道)



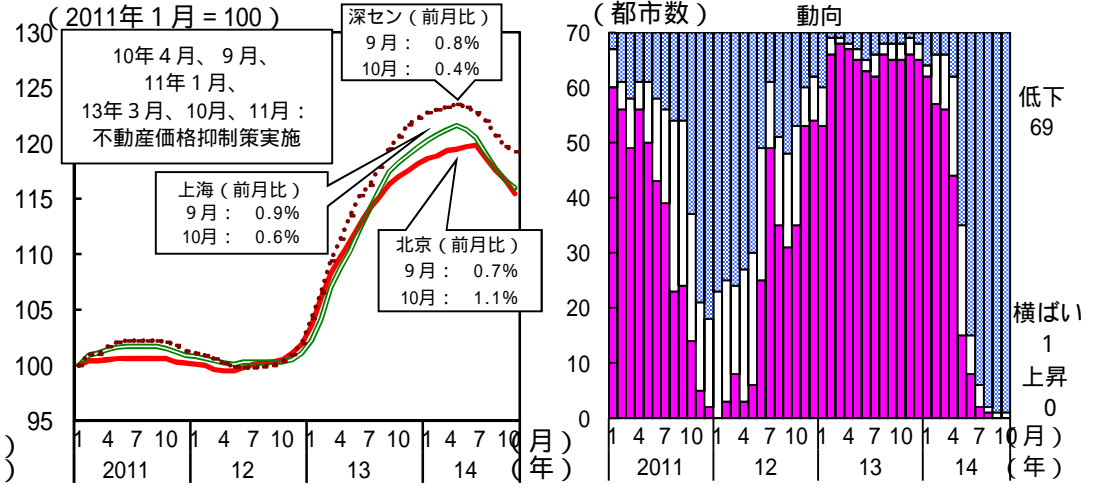
(備考) 1. 輸送量ベースの前年比。
 2. 14年以降の自動車輸送量の伸びについては、当局発表の累計の伸びを元に当室試算。

製造業購買担当者指数 (PMI) はこのところやや低下



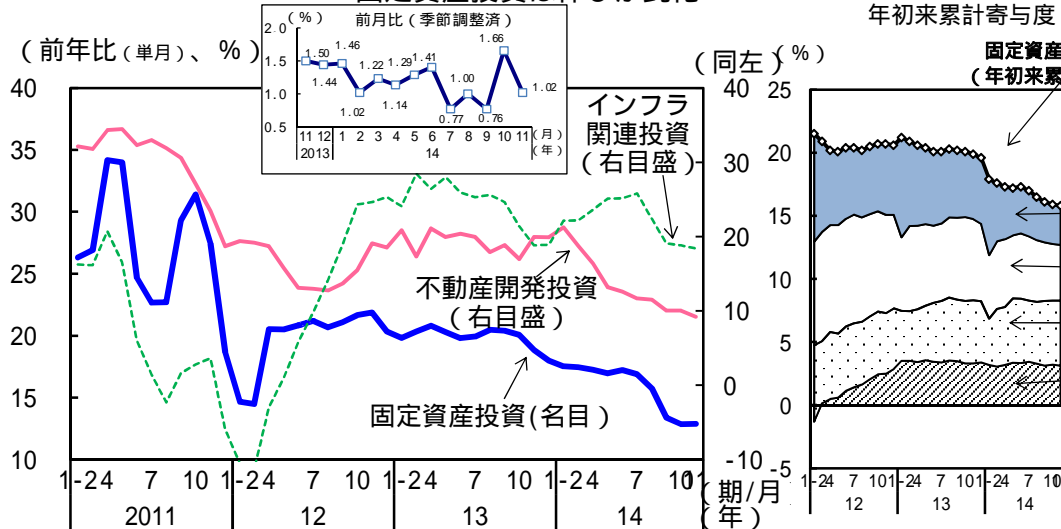
(備考) 国家统计局では、製造業の業況に関わる11の項目について企業調査を行い、各々が前月に比べてどう変わったのかを集計。全体は、生産高、新規受注、原材料在庫、雇用、サプライヤー納期の5つの指標から合成される。50より高ければ、「改善/増加」と回答した企業の割合が多いことを表す。13年1月より、統計対象社数に変更があったため、厳密には13年1月前後では接続しない。

新築住宅販売価格：低下



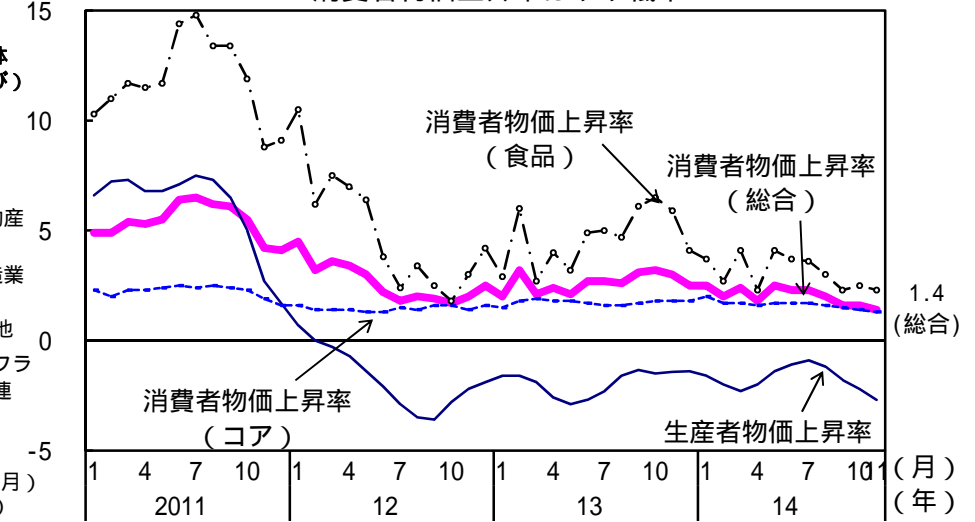
(備考) 価格水準は、11年1月の1㎡当たりの価格を100として指数化。動向は、前月比でプラスの都市を「上昇」、±0.0%の都市を「横ばい」、マイナスの都市を「低下」とした。

固定資産投資は伸びが鈍化



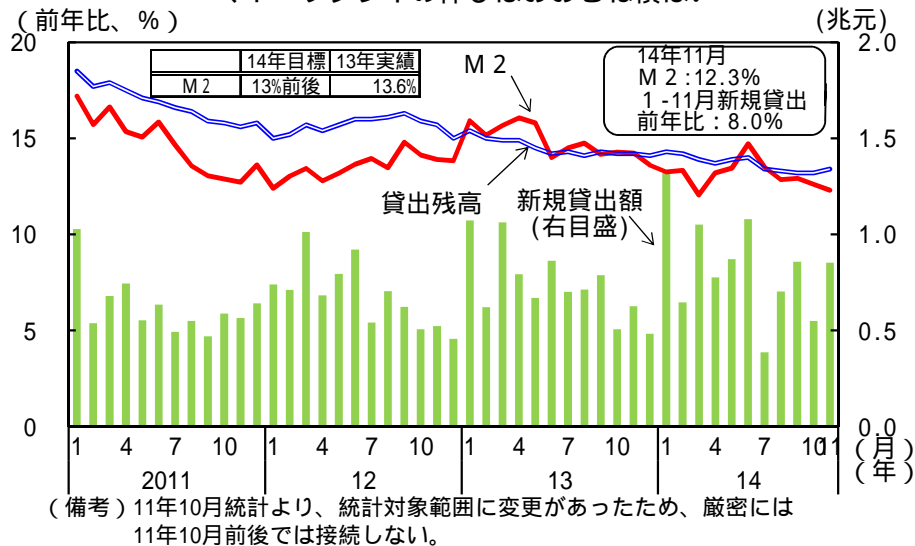
(備考) インフラ関連投資は、道路、ダム、鉄道等の投資額を合算したもの。また、いずれも単月試算値の3か月移動平均の前年比。

消費者物価上昇率はやや低下

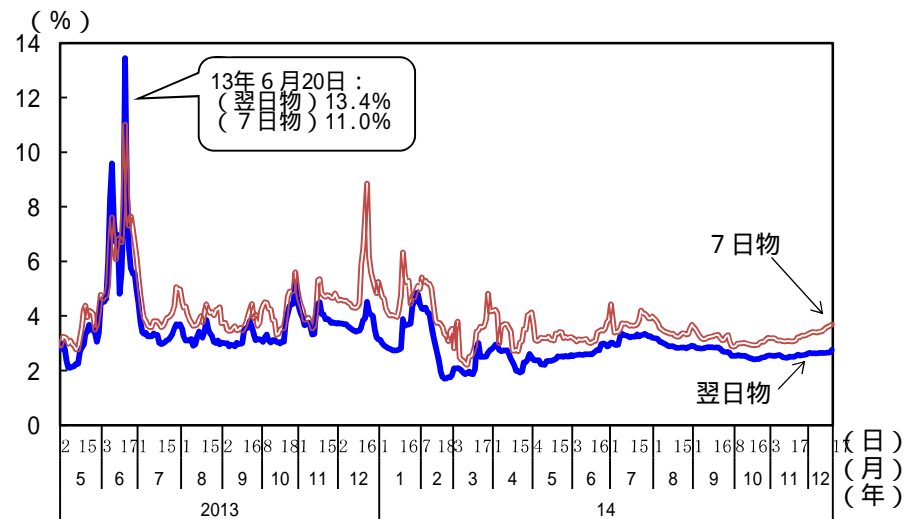


(備考) コア消費者物価は、総合から食品とエネルギーを除いたもの。

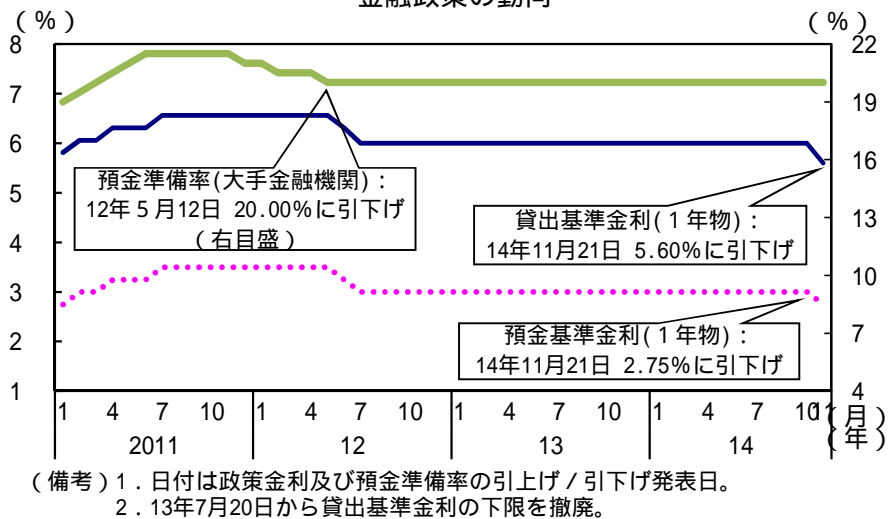
マネーサプライの伸びはおおむね横ばい



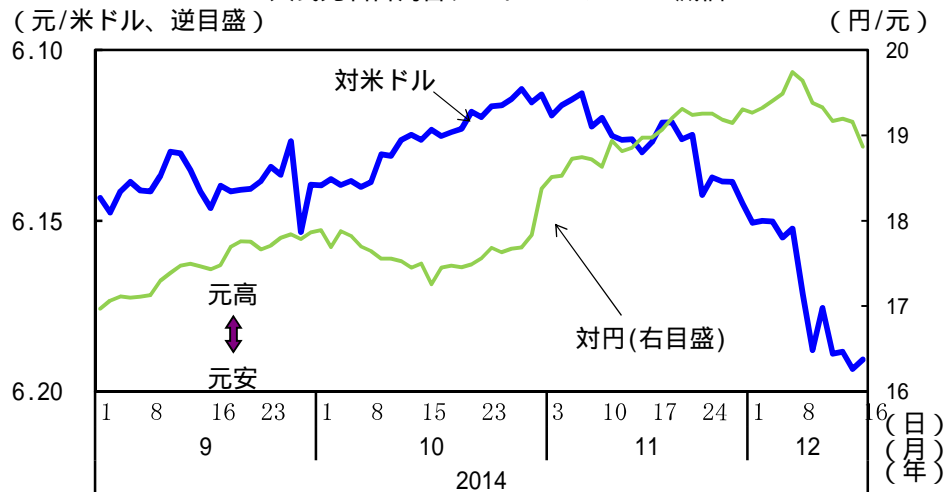
上海銀行間取引金利 (SHIBOR) : おおむね横ばい



金融政策の動向



人民元名目為替レート: このところ減価

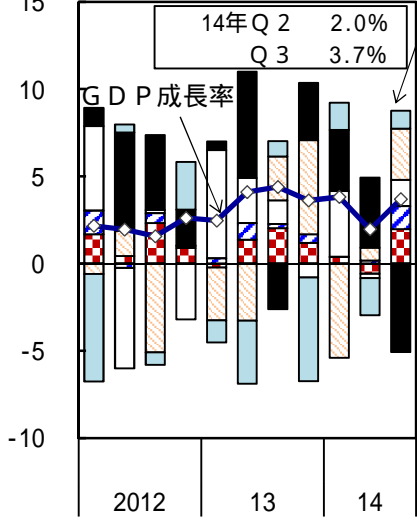


韓国、台湾：

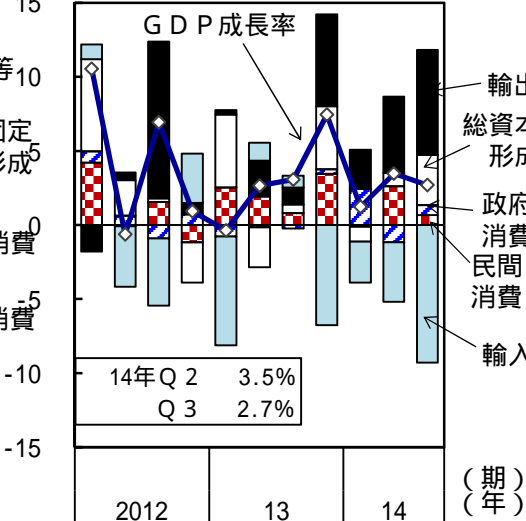
韓国では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。台湾では、景気は緩やかに回復している。

実質GDP成長率

(1) 韓国
(前期比年率、%)

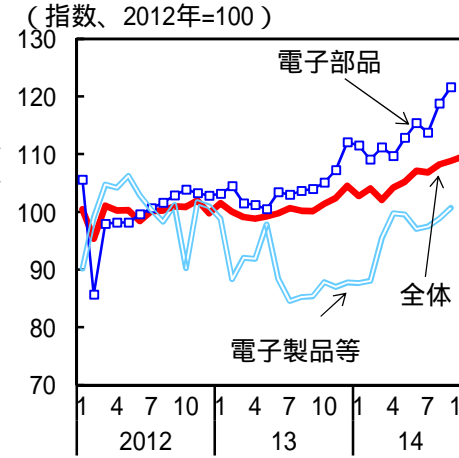


(2) 台湾
(前期比年率、%)

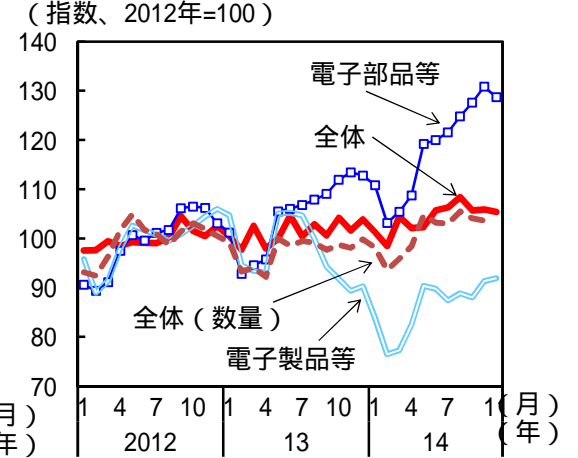


台湾：生産、輸出

(1) 鉱工業生産



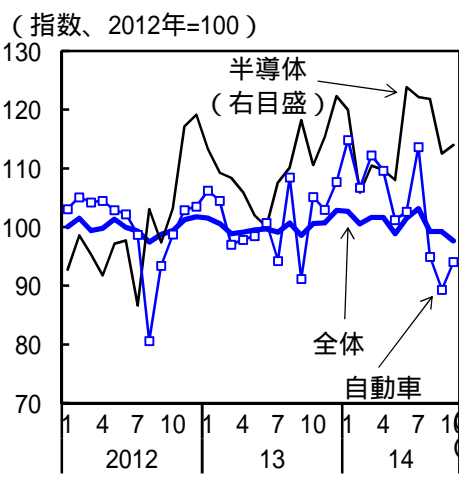
(2) 輸出



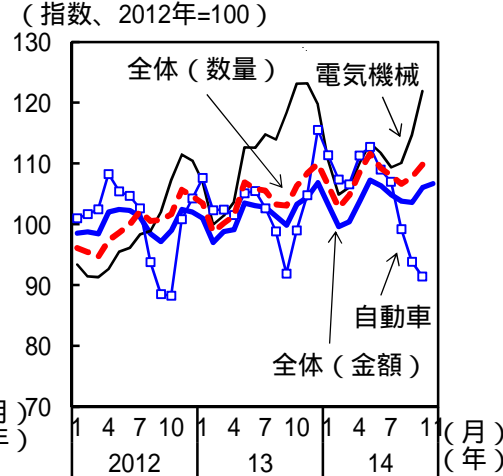
(備考) 輸出総額は季節調整値。輸出の全体(数量)、電子部品等、電子製品等(情報通信関連財及び光学用機器類の合計)は原数値の3か月移動平均値。数量以外は米ドルベース。

韓国：生産、輸出

(1) 鉱工業生産

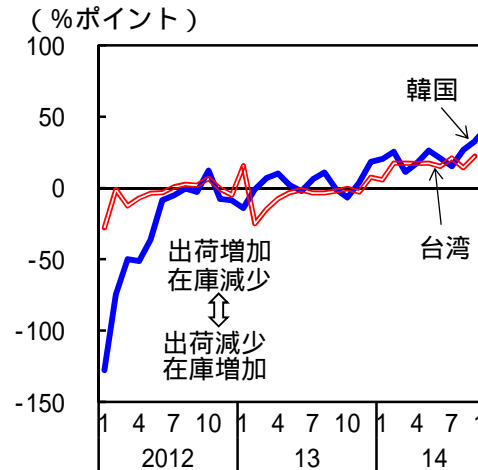


(2) 輸出

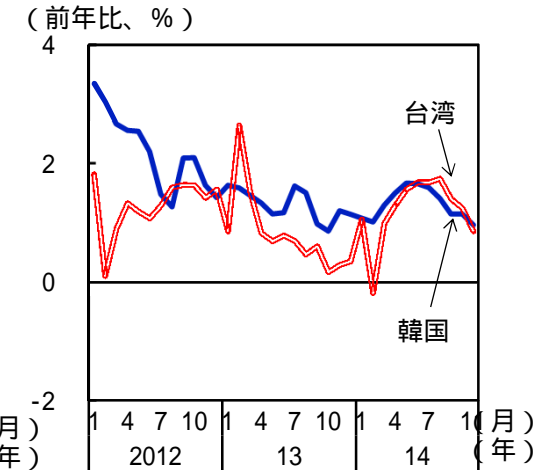


出荷在庫ギャップ

(韓国：半導体、台湾：電子部品)



消費者物価上昇率



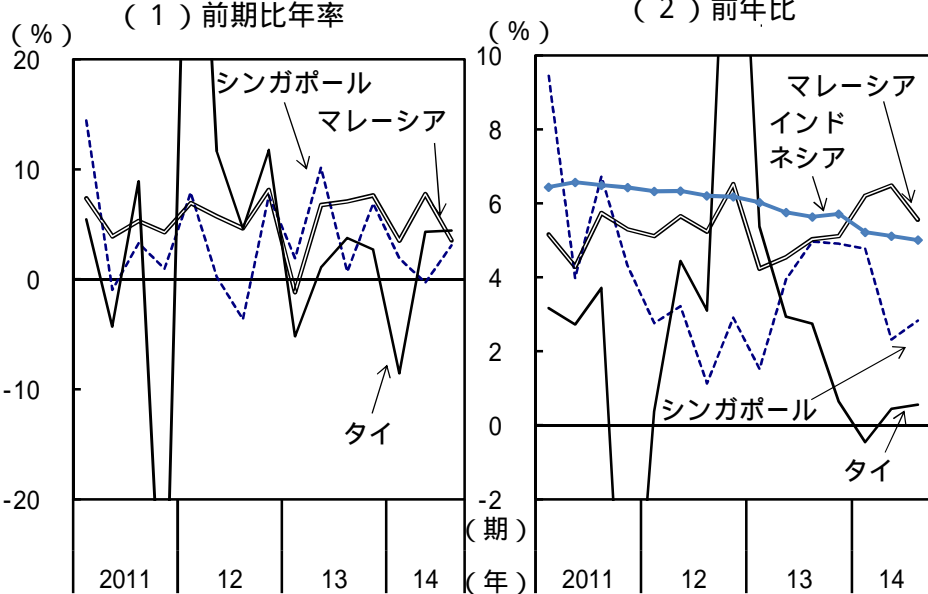
(備考) 出荷在庫ギャップ = 出荷前年比 - 在庫前年比。(備考) 台湾は生鮮食品を除いたもの。

(備考) 輸出の指数は、原数値の3か月移動平均値。数量以外は米ドルベース。

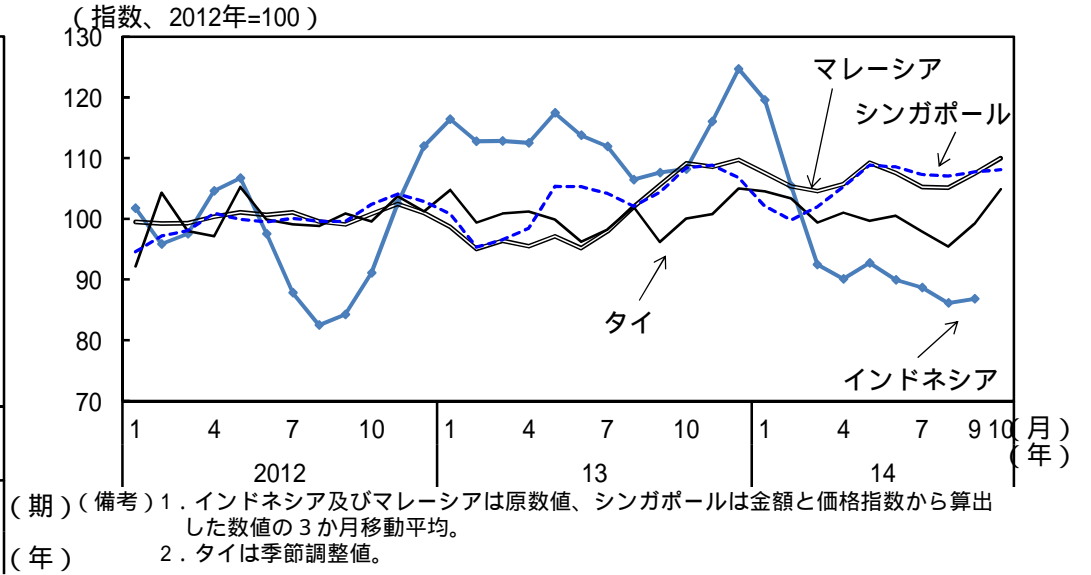
ASEAN地域：

ASEAN地域（インドネシア、タイ、マレーシア及びシンガポール）では、景気は総じてやや減速感がみられる。

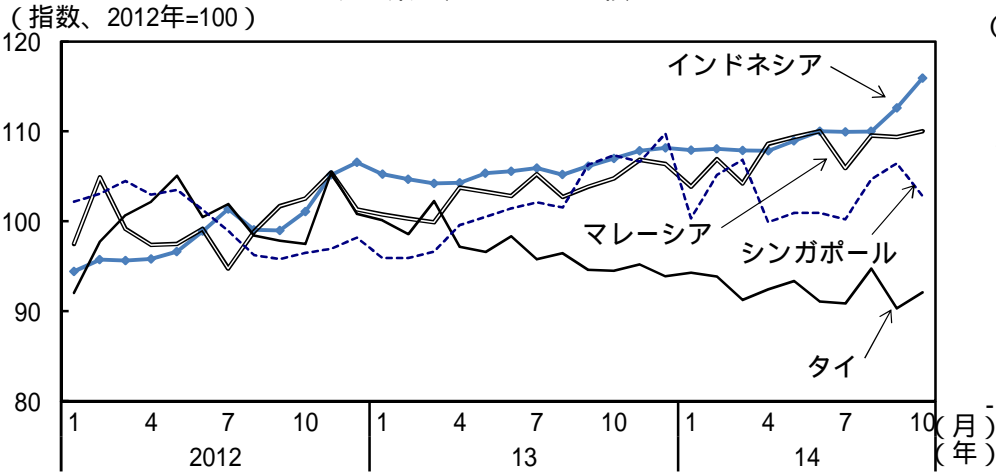
実質GDP成長率



輸出（数量）：弱い動き

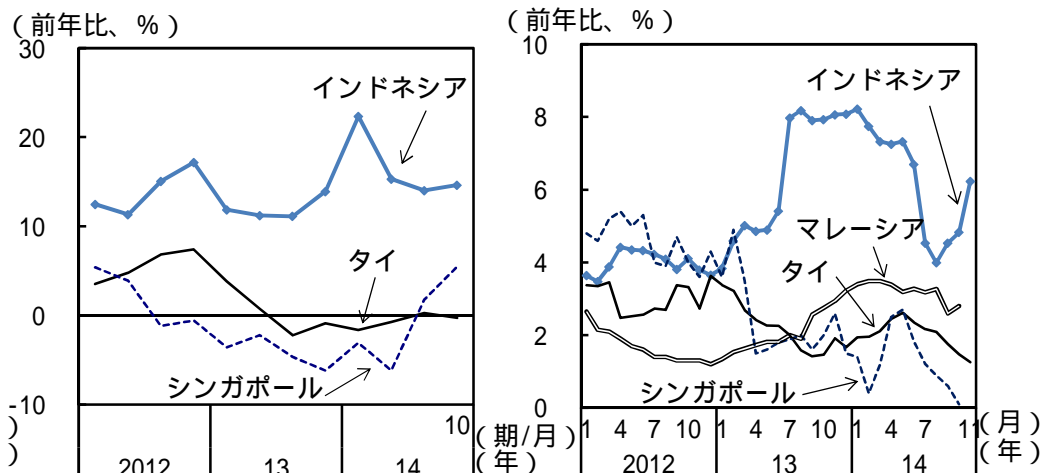


鉱工業生産：おおむね横ばい



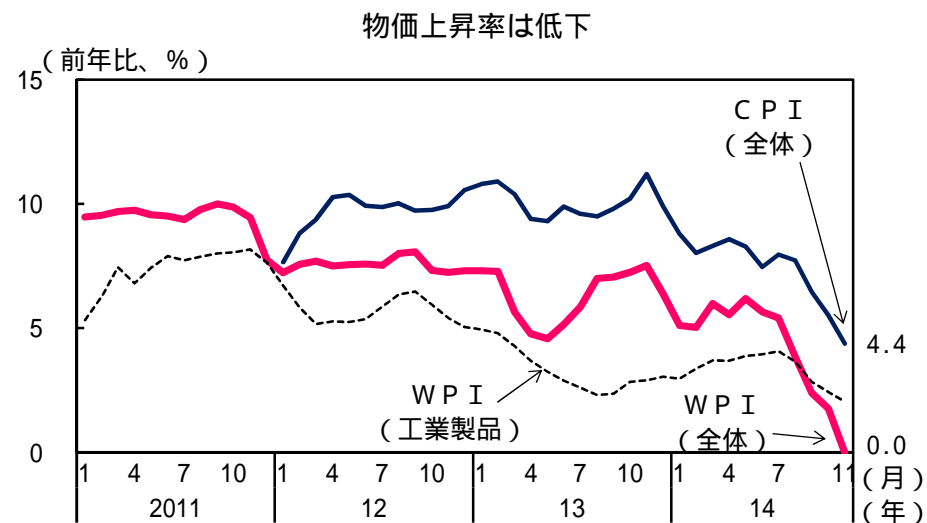
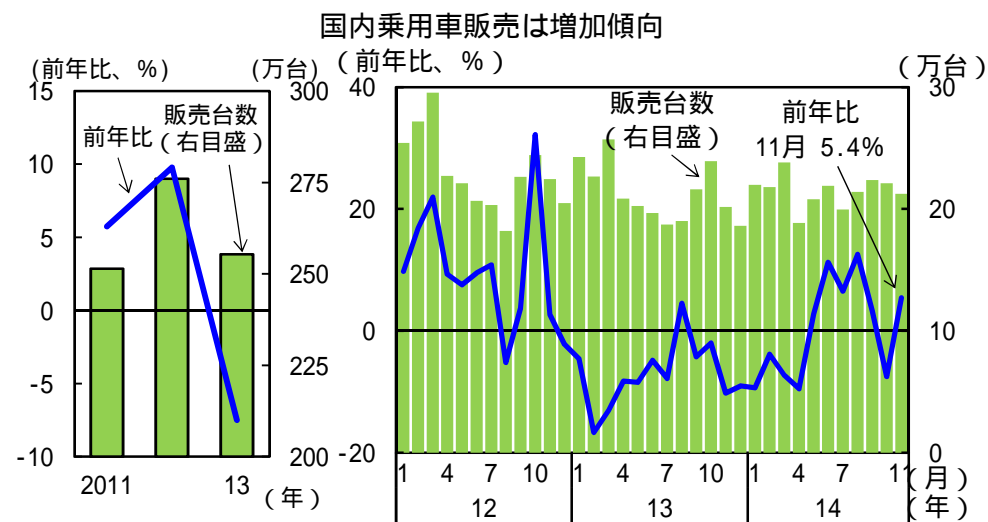
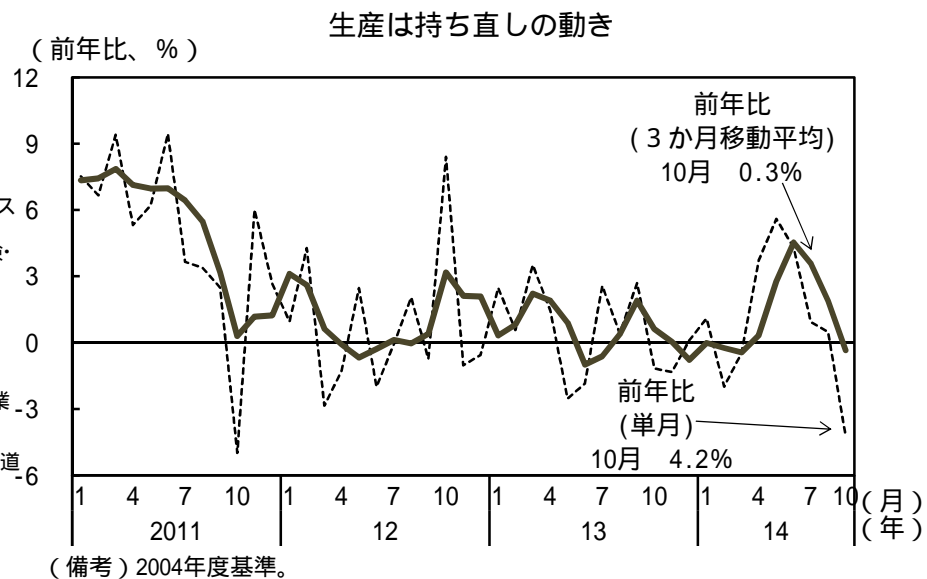
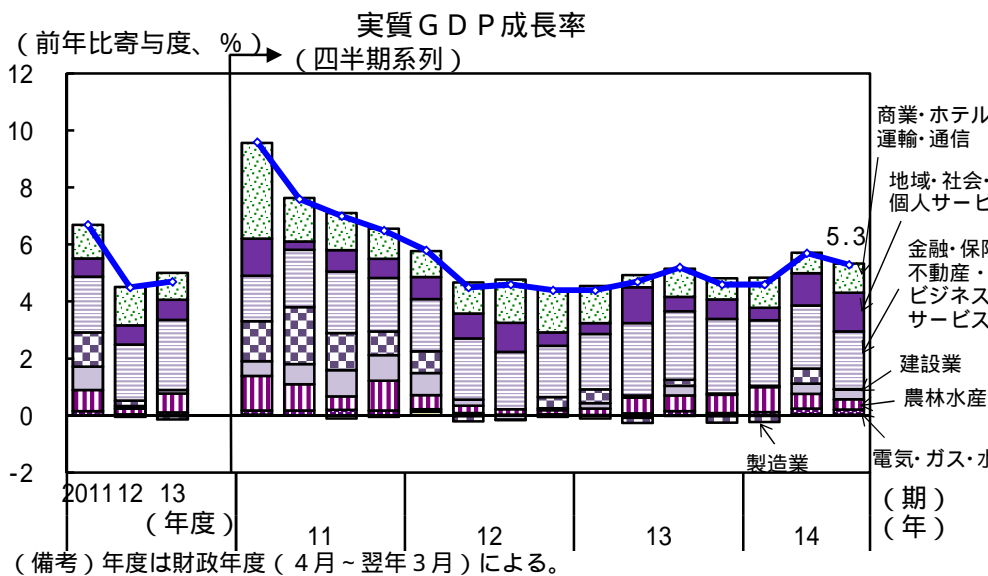
(備考) 1. インドネシア、タイ及びシンガポールは製造業の数値。ただし、シンガポールは振れが大きいバイオ・メディカルを除いたもの。
2. インドネシアは原数値の3か月移動平均値。
インドネシアを除く各国の数値は、季節調整値。

実質小売上：インドネシアでは高伸 消費者物価上昇率：上昇する国も



インド：

インドでは、景気は持ち直しの動きがみられる。



(備考) 2014年度暫定予算において物品税率を引下げ(小型自動車は12%から8%等)。
なお、当初2~6月までの予定を新政権は14年末までの延長を決定(6/25)。

(備考) CPI総合指数の上昇率は2012年以降のデータ。